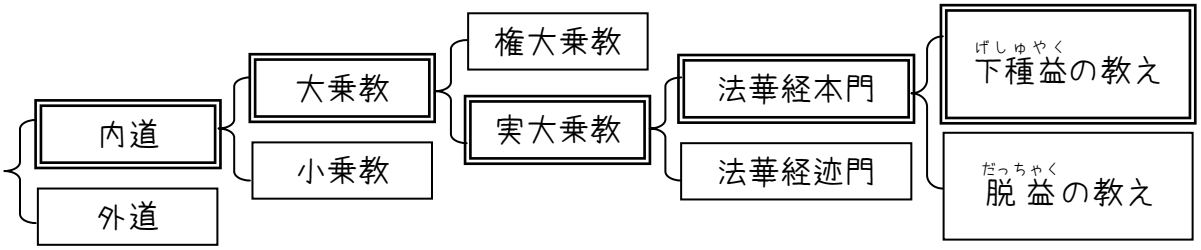
２．五重の相対

一切の思想宗教、なかでも仏教の種々の教えを比較検討して浅深高低を判定し、現実に苦悩を解決し人々を絶対的幸福境涯に導く究極の正法を明らかにする。

判定基準　＝　生命の因果をどう説いているか。



①内外相対	三世にわたる生命の因果を的確に説いた仏教（内道）か 因果を説かない、又は説いても偏った因果観である仏教以外の諸宗教（外道）か ■仏教（内教）…三世の因果の全体像を説き、人間の内部に変革する力があると洞察。
②大小相対	自分だけの悟りを目指す教え（小乗教・二乗のための教え・灰身滅智の教え）か 自他共の幸福をめざす菩薩のための教え（大乗教）か ■大乗教…煩悩に覆われていてもその生命を排除せず仏界を涌現する⇒煩悩即菩提
③権実相対	二乗、女性、悪人は仏になれないと説く仮りの教え（法華経以外の諸教）か 全ての衆生に仏界が具わっていて平等に成仏できると説く真実の教え（法華経）か ■法華経（実大乗教）…諸法実相　二乗作仏　悪人・女人の成仏を説いた。
④本迹相対	始成正覚の立場で説いた迹門か（法華経前半１４品） 久遠実成の立場で説いた本門か（法華経後半１４品） ■本地（久遠実成）の立場…三世の永遠の生命観、万人成仏の可能性が示された。
⑤種脱相対	久遠実成を明かすが修行した法が明かされていない法華経文上の本門（脱益）か 成仏のための南無妙法蓮華経を明かす日蓮大聖人の文底独一本門（下種益）か ★法華経本門寿量品の文底に秘沈された成仏の根本の法を明かしたのが日蓮大聖人の仏法である。 ★南無妙法蓮華経は下種益である。仏種を直ちに説き、本来具わる仏界の生命を直接触発する教え。末法の衆生は大聖人の下種益ではじめて成仏できる。 「彼は脱此れは種なり彼は一品二半此れは但題目の五字なり」

法華経文上の本門		大聖人の文底独一本門
脱益	⇔	下種益
成仏の法は明かされていない	⇔	南無妙法蓮華経

※釈尊在世時代の成仏（仏界を開く）の過程

下種	⇒	調熟	⇒	得脱
初めて成仏の因となる教えを聞く		次第に衆生の生命が整っていく		最終的に成仏する
下種益		熟益		脱益